

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	(事務局用)	過疎化と高齢化の進む集落群と買い物・福祉医療等の拠点地域を効果的につなぐ方法	山形県鶴岡市
アイデア名(注2) (公開)	デマンド型タクシーと空き店舗を活用した高齢者に優しい公共交通		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	大東文化大学 社会学部 阿部ゼミ 地域公共交通チーム		
チーム属性(公開)	3.市民、学生による混成チーム		
メンバー数(公開)	6名		
代表者情報	氏名(公開)	成田 信一	
メンバー情報		板垣 久喜 町田 未来 荒木 瑠那 星 侑那 勝田進太郎	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

- ・過疎化と高齢化が進む中での地域公共交通の空白地域における高齢者の生活問題の改善。
- ・地域の中心地域における空洞化対策の改善
- ・行政依存型から住民主体による地域公共交通体制の構築にむけた意識喚起の課題

<解決アイデアの内容>

【現状】

【第2次鶴岡市総合基本計画構想】

- ・公共交通ネットワークの形成 ⇒持続可能な公共交通ネットワークの形成
- ⇒ICT 活用、まちづくり連携による地域公共交通ネットワーク再構築

鶴岡市藤島地域

【鶴岡市藤島地域の高齢化率 37.1%】

<八栄島地区 39.6%、長沼地区 40.7%>

【藤島地域でもっと高い高齢化率】

【鶴岡市藤島地域<八栄島・長沼地区>の公共交通】

1999年 庄内交通バス路線廃止（鶴岡～押切線）

2000年 町営バス「ぼっぼ号」運行（2003年廃止）、

2015年以降から地域課題として「交通不便」問題と新たな地域交通の導入課題

農村地域の高齢化・過疎化

自動車利用前提の社会

地域の商店・医療施設の廃業

高齢者の交通事故増加

免許返納の困難さ

買い物・医療弱者の増加

●鶴岡市藤島地域は、1999年に庄内交通（鶴岡～押切線）が廃止され、町営バス「ぼっぼ号」を運行していたが、利用者が伸び悩み低迷。それ以降、地域公共交通空白地域となっている。特に藤島地域で最も高齢化率が高いのは、八栄島地区 39.6%、長沼地区 40.7%である。

●買い物弱者対策の拠点となっていた「藤島ふれあいセンター」が9月に閉店し、空き店舗活用問題が浮上。

●一方で自動車利用が前提の農村地域での高齢者の交通事故の増加と自主返納の困難があり、運転できない・運転しない高齢者数が増大している。

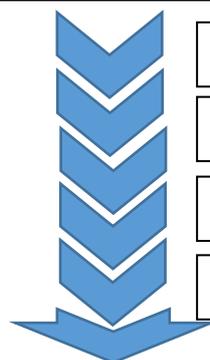
●また、地域の商店・医療施設の縮小・移転・廃業があり、目的地の遠隔化と買い物・医療弱者による地域住民の移動の確保が問題化している。

そこで、現状を改善するために「デマンド型タクシーと空き店舗を活用した高齢者に優しい公共交通」を提案する。

「デマンド型タクシーと空き店舗を活用した高齢者に優しい公共交通」

- 八栄島地域と長沼地域において、新たな地域公共交通として「デマンド型タクシー」を導入し、買い物・医療弱者の克服と9月に閉店した「ふれあいセンター」を連動させて、空き店舗の利活用を兼ねた賑わいの創出を目指す。
- 地域の住民が、行政に依存するのではなく、自分たちの地域の公共交通問題の在り方を再認識し、「自分たちの足は、自分たちの地域の問題」として地域課題として積極的に関わり、課題意識を持ってもらう。

- 八栄島・長沼地区での「地域公共交通ワークショップ」の開催し、自分たちの地域交通の現状を知ってもらう



- 普段、利用している店舗・病院の利用状況の把握と交通ルートのマッピング作業

- 「デマンド型タクシーの導入事例」などの勉強会の実施と先進地域事例の紹介

- 「ふれあいセンター」の空き店舗の利活用の要望把握とチャレンジショップの運営

- 地域住民における「地域課題の意識化」と地域課題解決を目指す協力体制の構築へ

- 高齢者が利用しやすい「デマンド型タクシー」とまた行きたくなる「ふれあいセンター」

【対象地域の概要】

- 鶴岡市藤島地域は、人口 10,009 人（2019 年 4 月 30 日現在・鶴岡市 web ページより）
- 鶴岡市藤島地域の高齢化率 37.1%であるが、八栄島地区 39.6%、長沼地区 40.7%と大きい。
- かつては、地域には商店街などがあり、生鮮食料品には不自由しなかったが、現在は駄菓子店 1 店のみ。
- 2001 年にオープンした藤島地区にある「ふじしまふれあいセンター」は、周辺地域の買い物弱者や交流の拠点として機能していたが、利用率の低迷から 9 月に閉店し、現在空き店舗利活用問題が浮上している。

【鶴岡市地域振興課および鶴岡市藤島庁舎総務企画課へのヒアリング】

- 鶴岡市の路線バスは、1 社 37 路線（黒字は 2 路線、国県補助 2 路線・地域フィーダー 18 路線・市単補助 15 路線）である。市運営有償運送は 5 路線、タクシーは、12 事業者、デマンド交通 2 地区である。
- バスによる実車走行距離と輸送人数は、2008 年は 2,245Km、1,015 千人から 2017 年 1,611km、777 千人へ低迷。自動車依存度は 79.9%である。路線バス運行補助金は 1.5 億円前後で推移している。
- 人口減少・過疎化の進展、小中学校統合に伴う、スクールバス利用の増加、さらには運転手不足とバス車両の老朽化、運賃の割高感や運行経路・便数・時間に対するニーズの変化によって、利用者の減少、収支の悪化、公費負担の増加、減便・廃止、サービスの低下といった「負のスパイラル」になっていることが明らかになった。

鶴岡市の地域公共交通を取り巻く課題

- まちづくりと連動した公共交通網の形成の必要性
- 市民協働による持続的な公共交通体系の確保が必要
- 既存資源を有効活用した利用者ニーズへの対応が必要
- わかりやすく・使いやすい交通環境の確保が必要



大東文化大学・阿部ゼミ

- 地域住民のニーズの把握
- 自分たちの目で現場を見る
- 地域住民と一緒に考える
- 住民に寄り添った課題提案

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

【ワークショップの様子】

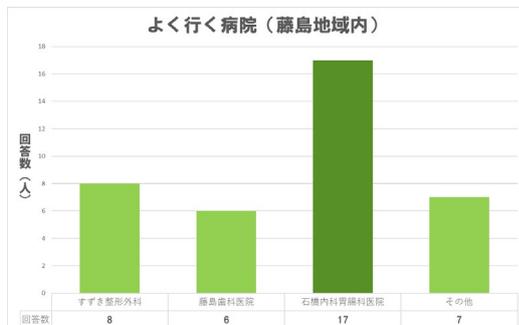
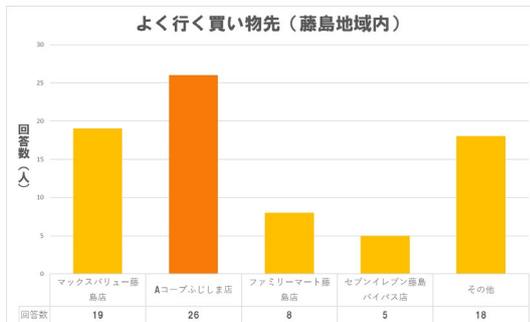
＜「長沼・八栄島地域・地域公共交通ワークショップ」、9月11～12日、11月23～24日開催＞



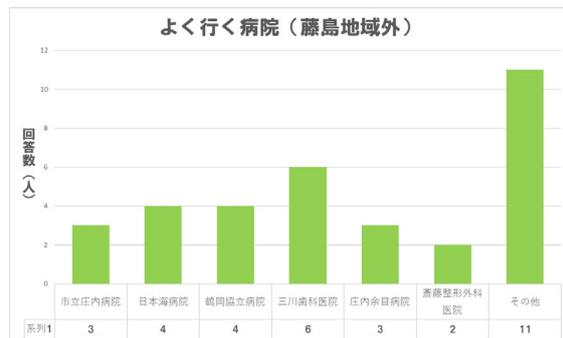
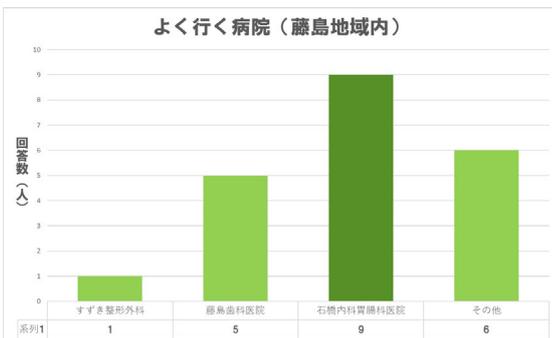
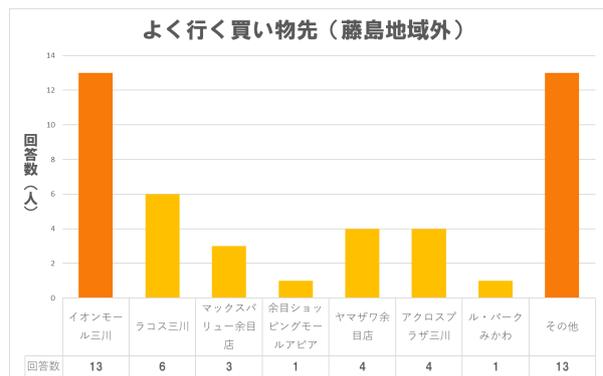
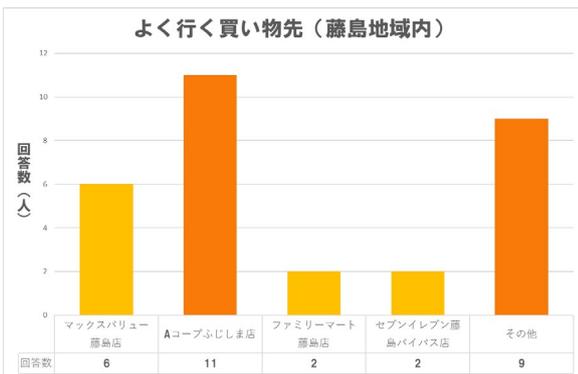
9月のワークショップでは、長沼・八栄島地域の高齢化率の現状や他の地域で進められている「デマンド型交通」の事例の紹介を行いました。【八栄島地区 30名、長沼地域参加者 40名】また、あわせて、グループに分かれて、普段利用する店舗や通院の現状、車の利用率などについて、参加者と学生と一緒に地図にマッピングを行いました。

このワークショップの結果は、11月に行った第2回ワークショップで報告を行いました。

【八栄島地区】



【長沼地区】



【ヒアリングなどから分かったこと】

買い物などは、隣町の余目地域に行くのが多いが、宅配などがあるのでそれを利用することが多い。また、通院などは、月に数回、数か月に処方箋などで数回という回答が多かった。買い物よりも通院などの送迎対策に力点を置く必要がある。そのため、藤島地域内の拠点と地域外の拠点を結びつけるルートが想定された。しかし、回答者の多くが自ら車を運転できる方が多かったため、別途高齢者の方を対象にしたヒアリングも実施した。

【高齢者の方へのヒアリング】

実際に免許を持っていない方、または80歳以上の方にもヒアリングを行い、実際の生活環境も含めて、お話を聞かせて頂いた。「（迷惑をかけると思いつつも）近隣に住む娘に買い物などの送迎をしてもらっている」、「医者に行くときは、送迎してもらい、帰りはタクシー」、「迷惑を掛けたくないの、通院などは鶴岡までタクシーで往復9,000円かけている」、「地区の方を乗せるときもあるが、正直事故などを考えると怖い」、「本当であれば免許返納したい」、「今は大丈夫だけれど、今後免許返納後はどう生活していけばよいか不安しかない。」という言葉が非常に印象的であった。免許証返納者の移動手段の問題は非常に深刻である。

一方で、デマンド型タクシーについては、「あれば利用したい」、「どういう利用方法なのか」と、積極的な意見が聞かれた。このヒアリングから、60代などの方は、まだ問題なく運転が出来、身近な問題として、そして今後の地域課題としてのイメージが描き切れていないことが浮き彫りとなった。一方で、当事者である高齢者の方は、切実な問題として捉えており、世代間で大きな意識の違いがあることが分かった。

【藤島ふれあいセンターのヒアリング】

2001年にオープンした「藤島ふれあいセンター」は、売上低迷によって、2019年9月末をもって店舗（売り場）の運営から撤退することが決定した。この空き店舗となった「ふれあいセンター」を拠点としたルートを結び、デマンド型タクシーの運行を行い、高齢者のみならず、周辺住民が生き生きとする賑わいの創出を目指すものである。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

【デマンド型タクシーの導入】

既に鶴岡市東栄地区において 2009 年に導入されているデマンドタクシーを参考にして、八栄島・長沼地区に導入を目指していく。デマンド型タクシーとは、利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運航スケジュールをそれに合わせて運行する地域公共交通である。既に実施した、ワークショップやヒアリングなどからは、新たな常設のバス運行では、採算や利用実態などを考えると難しく、「デマンド型タクシー」を導入するのが良いと判断した。

年	作業内容
2020 年 3 月	東栄地区のデマンドタクシーの現地調査
2020 年 4 月	地域住民とのワークショップ【ルートマップ作り】
6～7 月	地域交通利用実態アンケート調査の実施
9 月	ルートマップおよび時刻表の作成、広報戦略の調整
	協議会設立にむけてのワークショップ
11 月	利用アプリソフトの開発および企画と業者依頼
12 月	モニターテストと利用満足度調査、協議会設立総会
2021 年 2 月	地区交通会議との調整、ルート許可申請作業
2021 年 4 月	デマンドタクシーの導入開始

【実施運営主体】

実施運営主体は、既に東栄地区でデマンド型タクシーを運行している（株）ハイヤーセンターに運行を依頼し、実施主体は、八栄島・長沼地域において協議会を設立して、そこが運営を行って頂く。

しかし、協議会設置に向けては、多くの課題がある。それは、住民の地域公共交通に対する危機意識、「自分たちの足は自分たちで守る」という意識が乏しい点である。

【調査の実施方法】

調査の実施主体は、大東文化大学社会学部・阿部ゼミの「地域公共交通チーム」がメインに行く。しかし、ワークショップ、アンケート調査の実施・データ入力・分析については、地域公共交通チームのメンバーだけでは、作業負担が多いため、阿部ゼミのメンバーその他 10 名を動員して実施する。

【利用促進に向けたアイデア①】

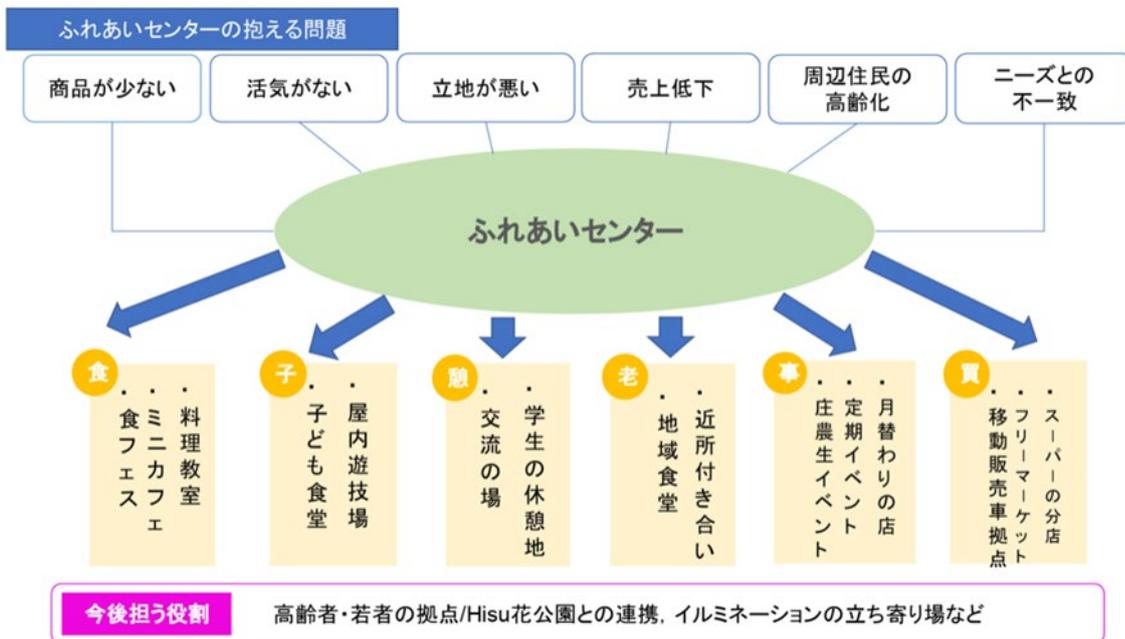
利用の促進にむけては、他の地域の事例などを参考にしていく。例えば、免許返納者割引、温泉施設利用割引、野菜クーポン券など藤島地域の公共施設・農産物などの提供を行い、利用回数および利用距離数によってはマイルージ付与やマイルージポイントなど行う。また、拠点となる「ふれあいセンター」での利用特典など設けて、「外に出るのが楽しい」、「人と交流できる場」といったものを実感してもらう。

【利用促進に向けたアイデア②】

また、最大の課題は、実際に利用してくれるかである。そのためには、高齢者の方が利用しやすい予約方法の確立が大切である。現在最も利用されている予約方法は、電話と FAX である。それをアイデアとしては、利用しやすい「アプリ」の開発である。そのアプリ開発に協力して頂ける企業を探している所である。

【利用促進に向けたアイデア③ ～賑わいの創出としてのふれあいセンターの活用】

2019年9月末をもって閉店した「ふれあいセンター」をデマンド型タクシーの停留所として、地域住民の拠点の場としていく。しかし、従来の様な常設の販売店では、売上げが見込めないため、平日のお昼は、高齢者に対する食事支援、夕方からは鶴岡市で二番目となる「子ども食堂と学習支援施設」を月数回の運営を行う。食材の提供は、近くの給食センターに食材を提供している「さんさん畑の会」、運営を食生活改善推進員にお願いをする。また、休日は、チャレンジショップとして、様々な形態のお店が期間限定で営業を目指す。現在、阿部ゼミの「福祉チーム」が行政と連携して、運営に協力してくださる方を探しつつ、チャレンジショップ募集を進めて行く予定です。



【まとめにかえて】

チャレンジ！！オープンガバナンスに応募にあたり、何回も現地に運び、地域の住民の方とひざを交えて話し合いを重ねてきました。しかし、地域公共交通の難しさ、そして過疎化と高齢化の中でこの問題をどう解決をすれば良いか、現実の難しさを痛感しました。チャレンジとして面白いアイデアを出すものの、ワークショップでの地域住民の対話の中で、より現実の難しい壁にたくさんぶつかりました。私たちが出来るのは、より現実に即したアイデアを示すことが、地域住民そして調査に協力して下さった方へのお礼であり、社会調査の社会的還元ではないかという結論になりました。